

ウェブマッピングサービスによるグローバル地質図ポータルサイト OneGeology

OneGeology: a web mapping service portal site for global geologic map

伏島 祐一郎 [1]

Yuichiro Fusejima[1]

[1] 産総研 地質情報研究部門

[1] Institute of Geology and Geoinformation
, AIST, GSJ<http://unit.aist.go.jp/igg/ci/intro/index.html>

産総研は、旧地質調査所のナショナルセンターとしての使命を引き継ぎ、地質情報の国際的標準化と流通推進に協調する様々な活動を行ってきた。それらのうち、ここ数年における重要課題のひとつ、OneGeology について紹介する。これは、地球全球を覆う 100 万分の 1 縮尺の数値地質図をウェブ上に公開する事を目標に、英国地質調査所によって提案された国際活動である。世界各国の地質調査所が参加し、ユネスコをはじめとする様々な国際機関の支援のもとに、IYPE (国際惑星地球年) の主要プログラムとして実行されている。

この活動は、2007 年 3 月英国において、世界 44 カ国の地質調査所の代表出席により開催された会議を皮切りとして始動した。さらに 5 月にオランダ地質調査所においておこなわれた実務者会議・11 月のカナダ地質調査所における責任者会議によって議論が深められ、公開のための方針と仕様がまとめられた。この仕様の概要を以下に略記する。

まず各国の数値地質図を自国のサーバに格納し、それぞれのサーバから、WMS や WFS などの OGC 標準仕様に従って配信する。データ形式・OGC 標準仕様の種別・縮尺・凡例等は、各国の既存データの実情に従い、無理な高度化をおこなわない。シームレス化・補完・地形データとの調整等もおこなわない。中立的国際機関が、紙版地質図の数値化やサーバを持たない国の配信支援をおこなう。世界中の地質図サーバを緩やかに覆う SOA (サービス指向アーキテクチャ) を構築し、各国数値地質図のメタデータのみをポータルサイトに集約する。ユーザはポータルサイトにアクセスし、メタデータをもとに各国サーバから数値地質図配信を受け、ウェブブラウザに複数国の数値地質図をモザイク状に表示させる。

2008 年 1 月、複数国の参加による基本的な実証実験が成功を収めた。2 月フランス地質調査所における実務者・責任者会議を経て、8 月までの第一次公開実現を目指している。その後は、XML スキーマによる地質情報構造規格 GeoSciML の適用による高度な展開を順次進めると共に、それが同時に GeoSciML の宣伝普及活動となる事も期待されている。なお GeoSciML については、同大会・同セッションにおいて、紹介をおこなう予定である。

産総研は実装作業を進めると共に、CCOP (東・東南アジア沿岸沿海地球科学計画調整委員会) の枠組みのもと、実務担当者ワークショップを 2008 年 1 月に開催し、積極的な支援活動をおこなっている。

参考ウェブページ:

<http://www.onegeology.org/>